

26 R・ブライト医師の“Reports of Medi-

cal Cases” (1827) (Vol. I) の内容について

会 田 恵

一八二七年ロンドン市ガイ病院のブライト医師 (Richard Bright 1789-1858) が “Reports of Medical Cases, selected with a view of illustrating the symptoms and cure of diseases by a reference to Morbid Anatomy” (Volume I) (以下「本書」) を出版した意義については、近代腎臓病学の父としてのみならず、一九世紀前半に始まった化学分析を利用した臨床病理学的考察の濫觴としての高い評価は、欧米では屢々研究され、紹介をされている所である。

しかし、本書が出版当時高価であった事、二五〇部の出版の多分約半数も売れない中に、出版元の火災があり、本書の再版、翻訳もなく、稀覯本となり、また腎臓病学の模索の状況などにより、とくに本邦ではこれまでブラ

イト医師の業績と本書の具体的な内容については間接的断片的な紹介にとどまって今日に至っている。

演者は、最近本書を入手し、親しく接して日も浅いのであるが、具体的な内容を概略紹介する。

本書は標題の様に、九十例の症例についての入院後の症状と治療による経過、死亡後の詳しい病理解剖所見(各臓器の重量の記載はない)が述べられて二二二頁に及び、巻末にはなお色彩鮮明な臓器の図版(外観と一部は剖面も)一五枚が主要部である。そして体裁は全体が縦三五・五cm、横二七・五cmでB4判に比べ縦が僅かに短い大きさで、内容の印刷は各頁共B5判の範囲に現在はつきりしていて判読不能の箇所はなく、綴込みも確実である。

症例については、最初の三十九例まで(二二七頁まで)浮腫を呈した例(IN DROPSY)で、その中二十三例までは腎不全の例となつて、その次に剖検した腎病理所見についての見解が述べられている。ここでは概ね3型に分けての三頁半に及ぶ観察で、図版IからVまでの説明も当然含まれている。これに続いて治療についての考察が

約四頁で、夫々の呈示の中に随所に見られる処方功罪について述べられている。

次に頁を新しくして、化学者ポストック (John Bostock 1773-1846) にブライト医師が度々届けた尿、血液についての観察と検査の結果の三回の報告の内容が「前述症例の尿の化学的特性の観察」の見出しで十頁にわたり紹介されている。この中では、尿の比重、アルブミン、尿素と食塩の比の事などが夫々詳しく述べられている。これらの尿の化学分析については、もう一人の有機化学者ブラウト (William Prout 1785-1850) の協力が多大なのであるが、この事はポストックの手紙や本書の所々に触れられている。

次にはホゼキン医師 (Thomas Hodgkin 1798-1866) からの手紙、肝性、心性浮腫患者の例が呈示され、再びポストックからの報告が紹介され、これには肝組織への薬品による試験、胆汁の検査がみられる。

この後には肺の炎症例、肺結核の症例、腸疾患の例の同様の呈示となっている。

巻末の図版は、上述の順序により腎の次にVIから肝、

肺、大腸、小腸とXVまで鮮やかに描写されている。この作業はメゾティント法 (mezzotint copper plate) とよばれる銅版画法で、ブライト医師の指揮により画家のフレデリック・リチャード・セイ (Frederick Richard Say 1826-1858) と父親の銅板彫刻家のウイリアム・セイ (William Say 1768-1834) が行っている。

本書によって代表されるブライト医師の示した腎臓病の概念は約一世紀にわたり、ブライト氏病として研究されて来た事は、周知の通りである。

そしてブライト医師が、彼同様にエディンバラ (Edinburgh) に関係のある著名な化学者ポストック、ブラウトの協力を得た事は誠に幸運であった。さらに一八三〇年代より進歩した化学分析は、H. Rose, Trommer, Fehling Test, Bence-Jones 等により臨床検査への応用が始まるのである。

(柏崎市・会田内科医院)